学校教育目標　「生命(いのち)輝く子どもを育てる」
ー心はほかほか、学びはしっかり、体ははつらつー」

とびのかふち

《学校だより》　第10号
令和４年９月１５日発行
湯河原町立湯河原小学校
校長　　北　村　和　裕

９月も中旬になりますが、秋らしくなってきたとはとても言えず、日差しが強く暑さを感じ、汗ばむ日が続いています。そのような中ですが、学校では、校外学習や運動会の練習など、子どもたちが外で伸び伸びと活動する姿があちらこちらで見られます。熱中症や感染症の対策を講じながらも、できるだけいろいろな活動をして欲しいと願っています。ご理解、ご協力をよろしくお願いします。

全員がスピーチ

ある日、教室の子どもたちの様子を見て回っていると、５年生は外国語の学習をしていました。子どもが挙手をし、教室の前に出て英語でスピーチをしています。次々に挙手をし、堂々とスピーチをする姿が続きます。しばらくすると、挙手が途切れました。外国語担当の先生が「あと６人ですね」と言いました。私は「みんなの前でスピーチをするのは勇気がいるもの。自分だったら無理かもしれない」と思っていました。すると驚くことに、再び挙手する姿が続いたのです。しかもスピーチもしっかりしていて、みんなから温かい拍手をもらっています。とうとう、残りの６人全員がやり切ったのです。放課後、担当の先生が「初めてのスピーチだから、今日無理ならばまた今度挑戦してねというつもりだったので、全員できたのには驚きました」と話していました。

一人ひとりの頑張りを讃えるとともに、それを後押しした温かい学級の雰囲気にも心から拍手を贈りたいと思います。

なぜか習字道具を…

８日（木）の中休みは避難訓練でした。中休みなので全員が教室にいるとは限りません。しかも予告なしで、突然のサイレンや「訓練訓練、地震です」の校内放送にも、子ども達は、慌てずに１週間前に行ったシェイクアウト訓練の通りに、身を低くして頭を守るような姿勢をとりました。その後「頭を守りながら体育館に避難しましょう」という放送が入りました。多くの子が教室にいたようで、防災頭巾をかぶって階段を降りていきます。中には、習字道具を持って避難している子もいました。６年生でした。その子たちは教室の隣の学習室にいたので防災頭巾を取りに行かずに、学習室にあった習字道具で頭を守ろうとしたのでした。なんと機転の利いていることでしょう。

「自分の命は自分で守る」ための冷静な判断と工夫でした。

子どもの成長を促す言葉　　～一言の力～

７月に行った児童アンケートの結果で、肯定的回答（そう思う　だいたいそう思う）が一番少なかったのが『自分のいいところを知っている』で６６％でした。本校の子は、自尊感情、自己有用感があまり高くないと感じていたところに、ふと目にしたのがこの文章でした。

私たち大人が発するほんの一言が、子どもたちに対してとても大きな力を持っていることを思い出し、今自分が子どもに向けている一言は、子どもを励まし、やる気を持たせる言葉になっているだろうかと振り返りました。大人は、日常の忙しさに思いを込める余裕をなくしてしまいがちです。ほんのちょっとした一言が、子どもの意欲や自信、成長を促すものになるようにしていきたいものです。

その一言で　励まされ　　その一言で　夢を持ち
その一言で　腹が立ち　　その一言で　がっかりし
その一言で　泣かされる
ほんのわずかな一言が　不思議な力をもつ
ほんのちょっとした一言で

（その他、子どもたちの様子は学校のブログに掲載中）
https://www.yusho.site/